

平成 27 年度国際協力報告会（東京地区）

平成 27 年 11 月 20 日、当国際ボランティア支援事業部の賛助会員並びに NGO 海外援助活動助成団体や国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けた NGO の代表者やスタッフ、また一般の方々を対象とした第 21 回目の国際協力報告会を東京・秋葉原の「AP 秋葉原」にて開催しました。



初めに、海外の開発途上地域に対して、ODA（Official Development Assistance: 政府開発援助）の実施によりその地域の発展に協力している独立行政法人国際協力機構（JICA）国内事業部 市民参加推進課 主任調査役の川角みのり様より、JICA の NGO 連携と「世界の人々のための JICA 基金」と題し、ご講演をいただきました。

ODA の形態には多国間援助と二国間援助があり、この二国間援助の中に「技術協力」「無償資金協力」「有償資金協力」「国際緊急援助」「市民参加協力」があります。特に市民参加協力の一つ、「草の根技術協力事業」について、この 2015 年度の募集から大幅に変わったとのことで、詳しい説明をいただきました。また中小企業向けの支援メニューについても、今後さらに進むことが予想されるビジネスの国際化に対応して、様々なコンテンツのもと、事業を行っていることが紹介されました。

次に、平成 27 年度 NGO 海外援助活動助成団体である「特定非営利活動法人エクアドルの子どものための友人の会」代表理事杉田優子様より、「エクアドルの子どもたちと共に 26 年 ～ボランティア貯金に支えられて～」と題し、ご講演をいただきました。「身の丈に合った活動」をモットーに、「やると言ったことは（無理そうなことでも）やりとげる」姿勢で行っている活動のご報告をいただきました。

活動が始まった当初は、学校施設の建設や修理が主な事業でしたが、時代の移り変わりと共に、菜園や技術研修、最近では子どもの権利保護や市民の社会参加といったものに、

事業内容も変化をしているとのこと。フェアトレードの「支える・つなぐ」という大きな役割にも注目しており、当日は会場でも手織りのマフラーやチョコレート等の販売を実施し、完売商品も多々出ていました。

また、同じく平成 27 年度 NGO 海外援助活動助成団体である「特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター」パレスチナ事業担当の並木麻衣様より、「ガザの子どもの成長を支える＝女性たちによる栄養失調予防の取り組み」と題し、ご講演いただきました。パレスチナ問題の背景からガザ攻撃の概要は、まだまだ日本国内では知られていないことが多く、出席者の多数の方から、興味深い内容だったとの感想をいただきました。

さらに子どもの栄養失調予防の一環として、現地の女性ボランティアへの調理実習の実施、保健教育等の活動を行い、物やお金を与える支援ではなく、「学習を通しての自立に結び付く活動」の詳細を知ることができました。



独立行政法人 国際協力機構
川角様



特定非営利活動法人
エクアドルの子どものための友人の会
杉田様



特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター 並木様



今回初めての試みとして、専修大学にも国際協力報告会の開催の案内を置かせていただきました。この案内をみて参加された学生の方がおり、今後も若い世代に NGO 等ボランティアの活動を広めていくという目的のためにも、続けていく予定です。

報告会終了後、参加者の方々と意見交換会を行いました。援助活動の苦労や喜び、現地の情報や助成などに関して語りあい、盛況のうちに終了することができました。